

氏名	折 田 洋 二 郎		
学位の種類	医 学 博 士		
学位授与番号	乙 第 1368 号		
学位授与の日付	昭和58年3月31日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者（学位規則第5条第2項該当）		
学位論文題目	腎移植患者末梢血リンパ球の各種 mitogen による幼若化反応と、患者血清による幼若化反応の抑制		
論文審査委員	教授 寺本 滋	教授 太田善介	教授 小川勝士

### 学位論文内容の要旨

腎移植の臨床において拒絶反応は移植腎長期生着への一つの壁となっている。そこで腎移植患者における移植後の免疫応答能の推移，長期性着例における血清中抑制因子の有無および拒絶反応時の特有な変化について PHA, PWM, ConA の mitogen を用いた末梢血リンパ球の幼若化反応および患者血清による幼若化反応の抑制を control 血清との比較において検索し以下の結果を得た。移植手術待期中の血液透析患者の幼若化反応は PHA, PWM 反応にのみ低下を認めた。そして移植患者では全ての mitogen において健康人に比し幼若化反応は低下していたが1年以上経過すると健康人に近く回復している。患者血清は健康人リンパ球に対して全ての mitogen による幼若化反応を抑制したが自己リンパ球に対しては PHA, PWM 反応のみ抑制し ConA 反応の抑制は認められず1年以上経過すると ConA 反応抑制の陰性例を多く認めた。また急性拒絶反応群の術前 PHA 反応は有意に高く，慢性拒絶反応群では PWM 反応の明らかな亢進を認めた。拒絶反応時の変化は一定の pattern として捕えられなかったが PHA, PWM 反応の明らかな上昇，ConA 反応抑制の陽性化が補助的診断として意義あるものと思われる。

### 論文審査の結果の要旨

本研究は腎移植に関する臨床的研究であるが，移植手術後の免疫応答能の推移，移植腎長期生着例における血清中抑制因子および拒絶反応時の特有な変化について検討した結果重要な知見を得たものであって価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。